

Meet the Musicians

楽団員紹介

心は熱く、頭はクールなヴァイオリニスト

鈴木 浩司

Koji Suzuki

[第2ヴァイオリン奏者] 2017年 11月入団

趣味:サッカー (東響フットサル部所属)



©N.Ikegami

元々は「ヴァイオリン」よりも……

姉のレッスンにたまたまついていったのが、ヴァイオリンを始めるきっかけ。父の「楽器をやるなら3歳になる前に」との考えもあって、2歳と10ヶ月で楽器を始めました。当時はヴァイオリンより、レッスンでもらえるお菓子や、教室に置いてあるじゃりン子チエの漫画目当てでレッスンに通っていました。

小学校に入ってから、ヴァイオリンと並行してサッカーを始めました。毎週ヴァイオリンのレッスン後に少年サッカークラブの練習に通っていたので、レッスン中も頭の中はサッカー一色。「練習しないならヴァイオリンはやめたら?」「やめたらゲームを買ってあげる」と言われていましたが、半ペソをかきながら「続ける!」と言い張っていたので、やはり当時からヴァイオリンが好きだったのだと思います。

小学5年生の時、横浜に引っ越してジュニアオーケストラに入り、管弦楽曲にのめり込んでいきました。思い返すと、そのジュニアオーケストラには現東響メンバーも在籍していたんです(!)。

“映像ノット”と2ndヴァイオリン

最初この企画を聞いた時、果たしてこのかたちでノット監督との音楽が表現できるのかと懐疑的な気持ちでいたのですが、リハーサルを進めるにつれ普段にも増してメンバー同士のディスカッションも生まれ、その場にいらないからこそ監督の理想の音を何とか再現しようとする共通の意識が育まれました。

学生時代から、オーケストラや室内楽では気が付くと2ndヴァイオリンを担当していました。2ndは、内助の功というか、縁の下の力持ちというか……ただその言葉だけでは表現しきれないですね。弦楽四重奏を人間に例えたときに、2ndは身体を正常に動かすためにビートを刻んでいる“心臓”だと教わった事があります。曲にもよりますが全く同じ事が当てはまるか分かりませんがオーケストラでも役割は似ていると思います。

表面に出てくることは少ないけれど、音楽をリードしていかなければならないポジション。音楽を進める方向性を決めていくうえで重要な役割なので、身体全体に血液を巡らせる心臓のように“内声が音楽を運んでいく面白さ”を、今後一層楽しみたいです。



小学生のころ、少年サッカークラブで(前列右から3番目)。Jリーグ開幕時から横浜F・マリノスのファンで、試合結果は常にチェックしています。

インタビュー:事務局